

パミドロネートが著効した犬の骨盤部骨肉腫の1例

矢野将基¹⁾ 森 崇^{1)†} 星野有希¹⁾ 岩谷 直¹⁾ 村上麻美¹⁾
酒井洋樹¹⁾ 谷川 徹²⁾ 丸尾幸嗣¹⁾

1) 岐阜大学応用生物科学部 (〒501-1193 岐阜市柳戸1-1)

2) 岐阜県 開業 (長良動物病院: 〒502-0814 岐阜市福光西2-1-1)

(2009年1月22日受付・2009年8月10日受理)

要 約

7歳、体重34kg、未去勢雄のゴールデンレトリバーが約1カ月前から両後肢、特に左後肢の負重を避けることを主訴に紹介来院した。CT検査を行ったところ、恥骨の50%以上と坐骨の一部、左股関節付近に骨融解像が認められた。同時にCTガイド下にてコア生検を行ったところ、骨肉腫と診断された。1カ月間隔でビスフォスフォネート製剤であるパミドロネートの投与を開始したところ、初回投与後1～2週間で跛行が消失し、その後第146病日のCT検査で病変部の骨の著しい再構築が認められた。第469病日に死亡するまでの間、計11回のパミドロネートの投与を行ったが、重篤な副作用は認められず、生活の質の改善が認められた。

——キーワード：犬，骨盤部骨肉腫，ビスフォスフォネート製剤。

----- 日獣会誌 63, 52～55 (2010)

† 連絡責任者：森 崇 (岐阜大学応用生物科学部獣医学講座獣医分子病態学分野)

〒501-1193 岐阜市柳戸1-1 ☎・FAX 058-293-2928 E-mail: tmori@gifu-u.ac.jp